



JAPAN
MARROW
DONOR
PROGRAM

安全情報

2002 年 9 月 19 日

(財) 骨髄移植推進財団
認定施設連絡責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会

尿道損傷にて入院延期となった事例

このたび、採取時に尿道損傷により出血し入院が延長された事例が報告されました。
採取施設からの報告によれば以下のような概要です

< 経過 >

麻酔導入後、膀胱バルーンカテーテル挿入。特に抵抗もなくスムーズに挿入され、バルーン膨隆時にも抵抗はなかった。

採取終了後、体位変換した際、尿道口より出血が認められたため、14Fr カテーテル 抜去したところ鮮血が噴出した。圧迫により、止血を図るとともに、外科医・泌尿器科医にコールした。(出血量は、300ml ~ 400ml)

腹部エコーで膀胱内の出血は認められなかった。

22Fr スタイレットバルーンカテーテルを挿入、牽引固定して止血に成功。

絶対安静および鎮痛剤投与で経過観察。10日後、止血を確認し尿道バルーンを抜去。

< 原因 >

前立腺部尿道部でバルーンが膨らみ尿道の損傷に至った可能性が考えられます。

以上ご報告申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会
(事務局 担当:折原)
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町 3-19
廣瀬第2ビル 7 階
TEL 03-5280-2200
FAX 03-5283-5629
E-mail: orihara@jmdp.or.jp